

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：中野島フレンズ保育園	種別：認可保育所		
代表者氏名：木場田良子	定員（利用人数）：120名（119名）		
所在地：川崎市多摩区布田18-25			
TEL：044-944-9288	ホームページ： https://shafuku-doujinkai.or.jp/facility/nursery-school/nakanoshima-friends		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 2013年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 同塵会			
職員数	常勤職員：	24名	非常勤職員 25名
専門職員	保育士	33名	管理栄養士 1名
	看護師	1名	調理員 6名
施設・設備 の概要	乳児室	3室	トイレ 6か所
	幼児室	3室	沐浴室 1室
	調理室	1室	職員休憩室（更衣室） 2室
	事務室	1室	地域子育て支援交流室 1室
	ホール	1室	相談室 1室
	一時保育室	1室	
	鉄筋コンクリート造り 2階建て	999.80 m ²	園庭

③ 理念・基本方針

【保育理念】

- ・児童福祉法に基づき、人権や主体性を尊重し自ら伸びゆく可能性を信じて、お子さまのために誠意を尽くします。
- ・子どもが現在をもっともよく生き、一生を通じて学び続ける姿勢を持ち、幸せな人生を送るための土台を築いていきます。

【保育方針】

- ・保健的で安全な保育環境を整え、一人ひとりの子どもの健康状態や発育状態を把握して快適な園生活が送れるようにする。
- ・子どもや保護者の方との信頼関係を大切にし、子どもたちが安心して過ごせるように援助する。
- ・個人差に配慮して一人ひとりを温かく受容し、適切な保護環境を行う中で生活リズムを整えながら、心地よく過ごせるようにしていく。
- ・季節感を大切にし、子どもたちが意欲的に楽しい経験がたくさんできる環境作りをする。
- ・友達や異年齢、いろいろな人との関わりを通じて、相手の気持ちを考えたり思いや

る気持ちが育つよう援助する。
 ・地域の中での保育を大切にし、子育ての知識・経験・技術を提供し、地域に根ざした保育園を目指す。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】
 中野島フレンズ保育園は、JR南武線中野島駅から徒歩7分、下布田小学校と隣り合った、梨畑やマンション、戸建て住宅が混在する閑静な地域に位置しています。多摩川の土手も近く、散歩に適した公園もいくつかあります。社会福祉法人同塵会が平成25年4月に川崎市から民間移管を受けた、9年目の保育園です。園舎は鉄筋コンクリート造り2階建てで、園庭は407.60㎡あり、0～5歳児119名（定員120名）が在籍しています。

【園の特徴】

- ・幼児クラスでは、異年齢交流の小グループを作って週1回縦割り保育を取り入れるとともに、縦割り保育の中でモンテッソーリ教育を行っています。年長児クラスは月3回英語教育を行っています。
- ・障がい児保育について、職員の理解を深める取組を行っています。
- ・食育、飼育活動に積極的に取り組んでいます。食育では、年間計画を作成して園の畑での野菜の栽培、調理、食事のマナーの習得、行事食等を実施しています。飼育活動では、メダカやザリガニ、蝶のさなぎ等の飼育を行っています。
- ・地域の中の保育園として、地域の子育て支援や地域とのつながりを大事にしています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年 5月 13日（契約日） ～ 2022年 2月 25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2014年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 子どもの気持ちを大切にした保育

乳児クラスでは、子どものやりたいという気持ちを大切に、子どもが達成感を持てるように、時間がかかっても丁寧に接しています。保育士は、一人ひとりと目を合わせてゆったりとした雰囲気、子どもの言いたいことや表情から気持ちを読み取って応答的に関わり、子どもがやる気になるような励ましの声をかけています。できた時には、「がんばったねえ」など、見ていたことを伝え、意欲や自信につなげています。

幼児クラスでは、子どもの発想から話し合いをして、出し物のテーマを決めて運動会や劇場ごっこで披露するなど、子どもの自主性や主体性を大切にした保育を行っています。

保育室内には、手作りの椅子やマット、座布団で区切られた小スペース、マット敷きでベンチのある階段下の図書コーナーがあり、子どもたちは、遊びたくない時や気持ちを落ち着けたり切り替えたい時に、その場所に行っています。

また、保育室には、「ふわふわことば」（大丈夫、一緒に遊ぼう等）、「ちくちくことば」（嫌い、ダメ等）を掲示して、子どもたちに相手の気持ちを考えることも教えています。

2. 子どもの人権尊重を意識した保育への取組

保育理念に「児童福祉法に基づき、人権や主体性を尊重し」と記載し、子どもの人権を尊重するという園の考え方を明確にしています。

園では、主任が区内の園長補佐連携連絡会の研究会に参加し「子どもの人権」について話し合ったり、全体会議（職員会議）の中で、多摩区作成の「自己評価チェックリスト」（子どもの人権を尊重する保育のために私たちが大切にしたいこと）を読み合わせたり、少人数のグループに分かれて内容を討議したりして、人権を尊重した保育が身につくよう取り組んでいます。

また、子どもの人権尊重や基本的人権への配慮について、園長や主任が保育の中で気づいたことがある場合には、乳幼児会議の際に議題にあげて話し合いを行っています。

3. 地域における子育て支援や地域交流への積極的な取組

園では例年、地域の子育て家庭に向けて、園庭開放、育児相談、プレママ・プレパパ体験、出張保育等を行っています。園庭開放では、月1回看護師による身体測定を実施し、プレママ・プレパパ体験では、初めて子どもを持つ親に対して、子どもの関わり方や授乳、おむつ替えの情報を提供しています。また、出張保育は、子育てサロン「バンビ」で手遊びやふれあい遊び等、家庭でできる遊びを紹介しています。

町内会や民生委員、児童委員、地区社会福祉協議会、学校、保育園等様々な団体で構成される「中野島多世代つながり愛プロジェクト」にも参加し、あいさつ運動や多世代の交流の場づくり等の活動を通じて地域の活性化に貢献しています。中野島中学校区地域教育会議への出席、シニアの読み聞かせボランティア、中学生の職場体験等の受け入れも行っていきます。

◇改善を求められる点

1. 園の自己評価の実施

現在実施の保育士の自己評価や保護者アンケートを踏まえて、園としての自己評価を実施し、その評価結果を分析、検討のうえ、組織的に保育の質の向上に取り組むことが期待されます。

2. マニュアルの整備とそれに基づく研修の実施

実習生・ボランティア受け入れマニュアル、保護者対応マニュアル等のマニュアル類を整備することが望まれます。また、標準的な実施方法を記載した業務マニュアル等について、時期や方法を定めて見直しを実施するとともに、マニュアルに基づく職員研修を行うことが期待されます。

3. 達成目標を明確にした中長期計画の作成

数値目標や具体的な達成目標を定めた中長期計画を作成し、その内容を職員に周知することが望まれます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、ナルク神奈川福祉サービスによる第三者評価を受審させて頂きました。開園2年目で受審した時は「サービス実施に関する項目」や「組織マネジメントに関する項目」で比較的自己評価しやすい内容でしたが、今回受審させていただいた内容は「経営状況の把握」や「事業計画の中長期計画や中長期の収支計画」と自園だけではなく法人がらみの内容もあり、自己評価しにくい箇所もあって最初は戸惑いました。

しかし、今の社会情勢が求めるものと理解し、自己評価しました。

「子どもの気持ちを大切にした保育」「子どもの人権を意識した保育の取り組み」等、利用者主体の保育や「地域における子育て支援や地域交流への積極的な取り組み」についての評価の高い点については、今後とも職員と創意工夫して更に充実させていきたいと思ひます。また、専門的かつ客観的な立場から改善を求められた点については、出来るところは早速実践し、職員にも周知してまいります。

また、今後の課題についても、法人とも連携しながら課題の明確化を図り、可能な限り早急に取り組を進め、職員にも周知を図っていきたく思ひます。

保護者の皆さまにおかれましては、お忙しい中、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後の園運営の参考とさせていただきます。

今回の評価を参考に、今後とも、福祉サービスの質の向上に努め、より良い施設運営を目指していきたく思ひます。

中野島フレンズ保育園
園長 木場田 良子

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり